

○3 番（宮原隆昌君）

3 番、宮原です。

まず、平成 30 年から本格スタートした沖之島架橋事業ですが、私も副町長時代に沖之島を何十回も訪問し、島民と意見を交わしたことが先日のようでございます。おかげさまをもちまして、四海漁港にはコンクリート製の大きな橋台が出来ており、いよいよ形が出来上がりつつあると実感しております。四海漁協をはじめ、自治会の関係者の皆さまに感謝申し上げます。

さて、先日の総務建設委員会で、濱口建設課長から報告のありました橋の全体事業費ですが、令和 3 年 2 月に 17 億 1700 万円と報告されていたものが、今回は、22 億 500 万円と約 5 億円の追加の事業費が必要なことに驚きました。事業費の増加の原因は、軟弱地盤対策による工法の変更や物価高騰による増額などが原因とのことですが、今後は大幅な増額がないように執行部はコストダウンに努力していただきたいと思います。

それでは、質問です。昨年 9 月の定例会では、大野議員より沖之島架橋についての一般質問がございましたが、その後の工事費の大幅な増加を踏まえ、この事業に対して、町民の理解を得るために改めて質問いたします。

これほどの予算を費やし、沖之島架橋は令和 7 年に完成する予定ですが、完成後の沖之島の振興策について、どのようなプランをお考えでしょうか。新規事業などビジョンがありましたら町民に示していただきたいと思います。

○議長（濱野良一君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

沖之島離島架橋事業は、令和 4 年 6 月に現場着手し、約 2 年経過しました。全体事業費は、令和 3 年 2 月の時点で 17 億 1700 万円と試算しておりましたが、再度試算したところ 22 億 500 万円となりました。これは、軟弱地盤対策による工法変更および物価高騰などによるものでございます。今後とも物価変動を注視しつつ、工程管理を精査し、経済的に収まるよう最大限努力してまいります。

また、架橋事業に伴う地域の活性化は、重要な課題であると考えております。そのため、昨年 12 月の 2 日には、沖之島住民の方に参加いただき、第 2 回島づくり座談会を開催し、「短期構想」および「長期構想」を取りまとめました。これは、住民の方が「何ができるか、何をやりたいか」という観点より提案された構想です。

また、令和 6 年度からは井戸端活動と称しまして、花畑の整備および休憩所のリニューアル等の活動を計画しております。まだまだ振興策プランとまではなっていませんが、今後は関係各課とも情報共有し、より具体的な計画および事

業メニューについて、地元住民とともに検討、研究してまいりたいと考えております。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○3 番（宮原隆昌君）

建設課主導での沖之島座談会において、さまざまな計画や要望が話し合われていることは分かりました。しかしながら、建設課は橋の工事についての専門部署であり、観光や農業、漁業の振興のことを考えますと、今後は国や県の補助金の活用も踏まえ、企画課、観光課、農林水産課、住民課などの各課の参加が必要ではないかと思います。完成まであと 2 年、橋を架けただけにならないように議会としても協力させていただきますので、町長、副町長はじめオール役場で取り組んでいただきたいと思います。

それでは、次の質問です。

昨年の 6 月定例会にて、土庄港港務所の耐震化や利便性について質問させていただきましたが、残念ながら全く進展がないようですので、再度質問いたします。

民間住宅の耐震化は重要であると考えますが、公共施設となるとさらに責任が問われます。最大震度 7 を観測した能登半島地震は記憶に新しいところでございますが、近い将来発生する南海トラフ地震では、被害がこれより広範囲で大規模になる恐れがあるということです。昭和 53 年に建設された土庄港港務所の耐震性は確認されておらず、旧耐震基準の建物で何度も高潮に浸かり、塩害により基礎部分のダメージも考えられます。

また、建築士の立場で見ますと、耐力壁の偏った配置や 2 階から上の構造物の加重などを考えますと、極めて IS 値が低いといえるかもしれません。IS 値とは、建物の耐震性能を示す仕様で 0.3 未満ですと、大規模な地震により倒壊する危険が高い建物ということです。大規模地震で陸路が閉ざされた場合、海路からの救助や物資の搬入は重要であり、土庄港港務所が倒壊すれば中央棧橋の使用ができなくなります。土庄港には耐震岸壁がありますが、潮位の関係で小型船は使用できなくなるかもしれません。このような状況で、現状の利用度や来年の瀬戸内国際芸術祭の開催により多くの観光客の利用が見込まれることを考えると、速やかに耐震診断を実施し、診断結果により耐震改修か、もしくは建て替えが必要と考えます。合わせて、土庄港港務所に隣接しています身障者トイレについて、これについては雨の日には利用しにくく現在においては小豆島の玄関口としてふさわしいとは思えません。土庄町には、土庄町障害のある人もない人も安心して暮らせるまちづくり条例を平成 30 年 4 月から施行しています。このことを踏まえて町執行部の考えをお聞きします。

○議長（濱野良一君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

宮原議員のおっしゃるとおり、土庄港港務所は昭和 53 年に旧耐震基準で建設され 46 年が経過しておりますが、耐震調査は行っておりません。

土庄港港務所は、高松行き高速艇および豊島宇野行き旅客船の切符売場があり、また隣接する平和の群像は優れた観光スポットの一つであるなど、多くの乗降客や観光客が集まる施設であると認識しております。つきましては、今後、町有施設の耐震性の調査や耐震診断の実施計画の策定などを考えていく中で、検討してまいりたいと存じます。

また、隣接する身障者トイレは、昭和 59 年 3 月に小豆島ライオンズクラブから寄贈されたものであり、24 時間利用可能でございます。老朽化が進んでいることから、近年では出入り口の修繕および照明灯の自動点灯化などを行いました。

また、令和 6 年度には臭気対策としまして、浄化槽の排水口の改修を予定しております。今後も施設の維持管理に努め、快適に利用していただきたいと考えております。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○3 番（宮原隆昌君）

以前にも申しましたが、土庄港につきましては、土庄港港務所やターミナルビル、平和の群像の横のほとんど利用されていない香川県の公園など、全体を見直す必要があると考えます。財政難の中ではありますが、災害時には人命にかかわることですので、土庄港港務所の耐震化の検討は最優先でお願いし、質問は終わります。